

## AHIをご支援ください



AHIは、趣旨に賛同する方々の支援によって運営されています。現在賛助会員は、愛知県を中心に全国で約4,500人。年間の実質的な収入約8,000万円のうち、約8割が、年会費及び約3,000件の寄付金によるものです。

### ■賛助会員としてご支援ください。

右記のように年会費を設けています。ご都合に合わせてお選び下さい。ご送金は随時受け付けています。

なお、いずれの会費をお選びいただいても、会報「アジアの健康」「アジアの子ども」をお送りいたします。

| 種別         | 金額          |
|------------|-------------|
| 終身         | 一括 100,000円 |
| S(法人)      | 年額 30,000円  |
| A          | 年額 10,000円  |
| B          | 年額 5,000円   |
| C          | 年額 3,000円   |
| J(原則18歳未満) | 年額 1,000円   |

### ■寄付をお願いします

随時寄付を受け付けています。また、毎年12月から翌年2月までクリスマス・お正月募金を行っています。

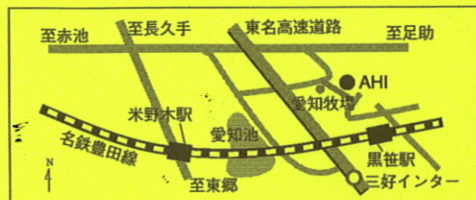
### ■年会費・寄付金への税控除について

\*当財団は、特定公益法人の認定を受けておりますので、所得税・法人税の控除の対象となります。領収書をご利用ください。

\*相続されたご遺産を当財団に寄付いただいた場合には、相続税控除の対象となります。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

### ■AHIへの道順

- 名古屋方面より：地下鉄鶴舞線「伏見」から「豊田市」行で「黒笹」(名鉄豊田線)下車(所要時間33分)  
「黒笹」より徒歩15分、愛知牧場北側・愛知国際病院隣



〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-30  
財団法人 アジア保健研修財団

アジア保健研修所

TEL 0561-73-1950 FAX 0561-73-1990

郵便振込00870-8-49688

2007年12月発行

e-mail: info@ahi-japan.jp

http://www.ahi-japan.jp

こんにちは  
**AHI**  
です。

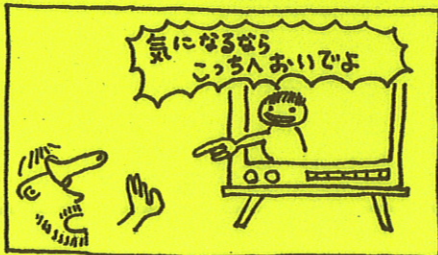
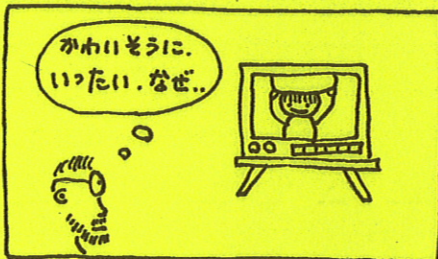
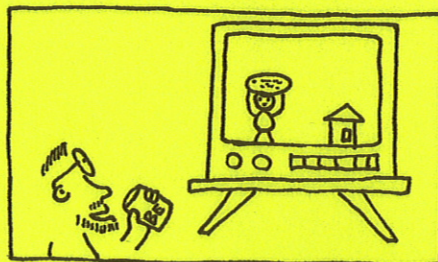
AHI (Asian Health Institute)

アジア保健研修所は、

アジアの草の根の人たちの健康のために

「何をすべきか」を考えながら、

1980年から活動を続けてきました。

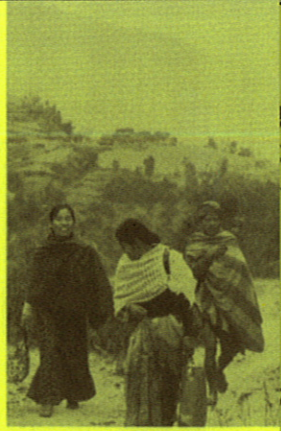


# AHIの始まり

## ●ネパールの病院で

1976年川原啓美医師は、ネパール僻地の病院で3ヶ月間働きました。毎日が忙しく、充実感もありました。ただ、患者さんのほとんどがずいぶん悪くなつてはじめて病院に来ることを疑問に思っていました。

1週間歩いてやっとたどりついたらある人が言うのを聞いて、簡単に来ることができないとわかりました。そこで、この人たちはどんな生活をしているんだろうと、村々を回ってみることにしました。



## ●人々の暮らしを知る

ヒマラヤがきれいに見える乾期は、旅行者にはすばらしい季節ですが、そこに住む人々には厳しいものでした。大切な財産である家畜の世話は、子どもにまかされています。この時期草は枯れてしまうので、子どもたちは、木に登って葉っぱをとります。夜は冷え込むので、火を焚き、それを囲んで家族が眠ります。

こうして、骨折して運ばれてくる子どもや火傷をした赤ちゃんの背景がわかるようになりました。

「鶏を飼っているのだったら、栄養をつけるために卵を食べなさい」と患者さんに言っていたけれども、卵は貴重な収入源であることにもやっと気づきました。



## ●村びとに近い人

貧しく病院に遠い人たちの健康を守るためには、予防が重要で、そのためには生活全般をよくすることが不可欠だと思いました。

村々を回った時、保健ワーカーという人に会いました。彼らは、赤ちゃんの体重をはかったり、母親に指導したり、また村の人の暮らし向きの相談にもものって



いました。その地域の事情をよく知った人が身近にいて、健康のことも生活の様々なことも相談できることが、鍵となるのではないかと思いました。



## ●もっと保健ワーカーを

ネパールの人たちと接する中で、自分自身を振りかえり、今後の生き方について考えるようになりました。そして「この人たちと引き続きかかわっていきたい」という気持ちを持つようになりましたが、言葉も事情もあまりわからない外国人としての限界も感じていました。

川原医師は「ネパールの人たちの健康が守られるにはどうしたらよいのか」と考え始めました。

そういう中で浮かんだのが「あのワーカーたち」だったのです。

それから4年。アジアの保健ワーカーを養成するためにアジア保健研修所(AHI)は設立されました。



## AHIがめざすもの - 住民主体の保健活動

川原さんがネパールで出会った保健ワーカーは、健康のために必要な基本的知識を村の人たちに教え、その人たち自身で健康を守ることができるように活動していました。

AHIは、生活を変えていこうという意識と意欲に裏打ちされた住民主体の保健活動を起こし支えていくワーカーを育てたいと考えてきました。

### 研修の考え方

各参加者が自分の課題を明確にし、それに取り組むための方法を考えることに重点を置いています。これは、地域での取り組みが人びとの問題意識に基づくべきであると同様に、研修も各自のそれに基づくべきだと考えているからです。



▲国際研修で熱心に話し合う参加者

### 国際研修 AHIで

アジア7~8カ国から、地域保健・生活改善に携わっている団体の職員約15名が参加。期間は5週間。活動経験の発表や、共通の課題を議論することを通して、自分の課題に取り組むための具体的な計画を立てます。

### 東洋医学研修 AHI・名古屋市内で

安価で、痛みをとる実用的な技術として、鍼（皮内針）とその応用技術を習得します。さらに、この技術を使って住民主体の保健活動を作り出す計画を立てます。

### 国外での研修 カンボジア、スリランカ、フィリピンで

現地の団体と協力して、より住民に近い立場のワーカーを対象にその国（または地域）の言葉で研修を行います。  
 ・カンボジアでは、政府保健省及び保健分野のNGOネットワークと協力して参加型保健教育の研修を行っています。  
 ・スリランカでは民間団体（NGO）所属の元研修生と、フィリピンではNGOと協力して、住民・NGO・行政の三者が連携した地域づくりを支援しています。

## 学ぶ



## つながる

### 互いの経験から学ぶネットワークづくりへ

#### ●研修参加者をつなぐ ひとつの経験を他へ活かす

これまでに国内外の研修に参加した人たちは、5,713人（2006年3月末現在）。経験を重ねているアジア各地の彼・彼女らの間にネットワークを作ります。

## 今、そして...



## だれと？何を？ 変えていく

#### ●住民と行政との連携をめざした研修へ 異なる立場の人たちをチームとして

住民の健康や生活を改善するためには、住民自身はもとより、行政をはじめとして、そこに関わる様々な機関が協力する必要があります。そこで、従来NGO職員中心だった研修の対象を、協同組合など住民組織のリーダーや現地の行政職員にも広げています。

また2年に一度、元研修参加者の中から、NGOが住民組織と行政の連携を進めている事例を選び、三者を一組として招き、経験交流を行っています。

▼保健ワーカーが住民に指導する



▲AHIでの研修が「健康」の輪をつないでいく



▼日本の学生も交流を楽しむ



## これから

私たち一人ひとりの健康は、それぞれの地域全体で支えられています。これは日本に住む私たちにとってもアジアの草の根の人たちにとっても同じです。

住むところや状況は違っても、健康づくり・地域づくりを共通項に、それぞれの地域・社会をよくしようとする人たちが、学び合うための場をAHIは作り出していこうとしています。



▲オープンハウスは、研修生も来場者も一緒に

### ◆あなたもご参加ください

アジアのこと、自分たちのこと一緒に考えてみませんか？

- AHI初めて始めて講座 ..... 毎月第4土曜日
- アジア訪問ツアー ..... 8月
- オープンハウス ..... 10月
- 講演会・勉強会 ..... 随時
- 出前講座（依頼に応じて行います）

いろいろな形で  
ボランティアとして

- ◎イベントの企画・実行委員
- ◎発送作業
- ◎ホームステイ
- ◎事務作業ほか

★お気軽にお問い合わせください。